

日本初*

AI技術により大型サイズに育てたサバを生でご提供

国産ネタをテクノロジーの活用でおいしく

「大型生さば」がくら寿司初登場

—5月15日(金)より期間・店舗限定で販売—

回転寿司チェーン「くら寿司」を運営するくら寿司株式会社(代表取締役社長:田中邦彦、所在地:大阪府堺市)は、日本で初めて*AIを活用したスマート養殖により、人工種苗から700g超の大型サイズまで育てたサバを使用した「大型生さば」を、5月15日(金)から期間・店舗限定で販売します。



当社では、水産物の世界的な需要の高まりによる仕入れ価格の高騰や、漁業従事者の担い手不足など、仕入れに関する課題を見据え、業界初の水産専門会社である「KURA おさかなファーム株式会社」を2021年に設立。持続可能な水産業の実現に向けて取り組んでいますが、中東情勢の緊迫化に起因する原材料価格のさらなる高騰や物流コストの上昇により、水産物の安定供給はより一層不透明さを増しています。

農林水産省の調査によると、国産サバの漁獲量は2015年には約53万トンありましたが、2024年には25万トン余りと10年で半減。また、財務省貿易統計によると、国内流通の大半を占めるノルウェー産サバの原料価格は、2010~20年頃はキロ200円程度で推移していましたが、今年に入り、漁獲枠の制限もあって3倍以上のキロ700円以上となるなど価格が高騰し、安定調達が困難になっています。

そこで、KURA おさかなファームでは、愛媛県宇和島市の生産者様に委託し、2024年7月から、愛媛県が完全養殖に成功した人工種苗を用い、AIによるスマート給餌機を使ったサバ養殖を開始。人工種苗から1年ほどかけて養殖されたサバは、200~300gほどのサイズが一般的ですが、スマート養殖により給餌の量やタイミングを適正化できたことで、約1年で500g以上にまで成育。最終的には、700g超の希少な大型サイズにまで育てた脂ののったサバを、回転寿司としては珍しい生サバとして、大阪と京都の一部店舗(75店舗)にて販売します。なお、生サバの提供は、くら寿司としては初となります。

日本の漁業を取り巻く環境が厳しさを増し、仕入れが不安定になる中、外食産業の一翼を担う企業として、安定した供給量確保とコスト管理を行い、リーズナブルで高品質な商品の提供の継続に努めてまいります。

*AI給餌機で人工種苗から700g超の大型サイズまで自社グループを通じて養殖したサバを生で提供、自社調べ

【本リリースに関するメディアの皆様からのお問い合わせ先】

くら寿司株式会社 広報・IR本部 広報部 TEL:072-493-6153 FAX:072-493-6154

取材・撮影申し込みフォーム: https://www.kurasushi.co.jp/media_contact/

最新のくら寿司基本素材はこちらをご参照ください <https://dentsuprc.jp/kurasozai> パスワード:kura

■養殖の様子



生けす



スマート給餌機



水中での様子

■商品概要

※予定数量に達し次第、販売終了となります。



大型生さば 350 円

販売期間: 5月15日(金)～無くなり次第終了

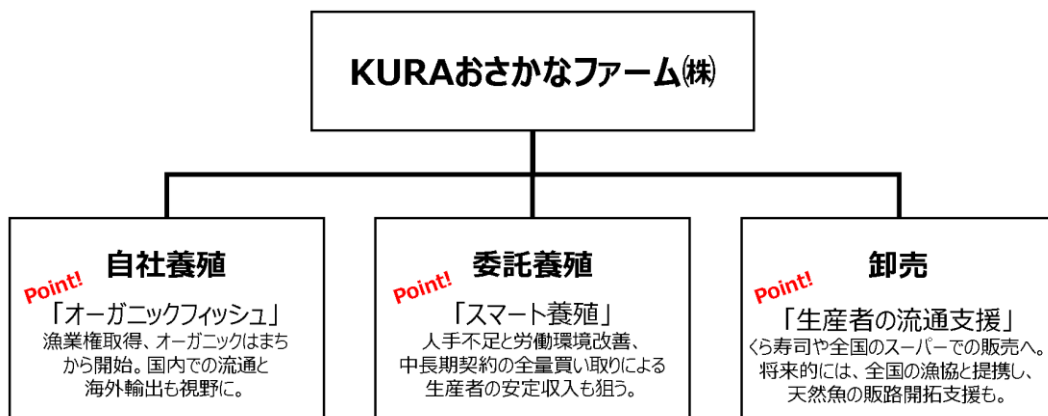
※お持ち帰り不可

※数量限定

販売店舗: 大阪と京都の一部店舗(75 店舗)

《KURA おさかなファームとは》

サステナブルな漁業の発展と魚の安定供給を図るため、2021年11月、くら寿司の子会社として設立した回転寿司チェーン初の水産専門会社。「オーガニックはまち」の生産と卸売のほか、AIやICTを活用した「スマート養殖」により、人手不足の解消と労働環境改善を目指しています。スマート養殖では外部の生産者の方々へ生産を委託していますが、同社が中長期契約で全量買い取りすることで、生産者の方々の収入安定化を図ります。これらの事業を通じ、グループ内で生産から販売まで一気通貫の体制を構築し、安定した供給量確保とコスト管理を実現することで、お客様により高品質でリーズナブルなお寿司の提供を目指します。また、生産者の方々や漁協とも連携し、収益機会の提供と労働効率の改善を通じて、「若者の漁業就業」や「地方創生」への貢献にも取り組みます。



《最新の ICT や AI 技術を活用した「スマート養殖」》

最新の ICT や AI 技術を活用することで、養殖業における労働環境の厳しさを軽減、改善できると期待されているのが「スマート養殖」です。AI を活用したスマート給餌機を使用することで、養殖において最も手間がかかるエサやりを自動化。さらに、AI が必要なエサを的確なタイミングで与えることで、成育スピードを早め、餌のロスを減らすことにも貢献します。洋上に向かわずともスマートフォンなどで、リアルタイムに生簀の状況を確認、また遠隔で餌を与えることも可能です。

これまで 2022 年 3 月に、スマート養殖で生産したマダイを初めて全国販売。また、2022 年 6 月にはハマチのスマート養殖に日本で初めて成功しました。給餌効率が最適化されたことにより、社会情勢の影響で価格高騰が続くエサ代や漁船の燃料費の削減、環境負荷の低減に寄与しています。

《「委託養殖」により商品の安定供給と生産者様のリスク低減》

KURA おさかなファームが養殖用の稚魚や餌を生産者様に提供の上、養殖を委託。作業効率が高いスマート給餌機を使って養殖をして頂きます。寿司ネタにできる大きさまで育てて頂いた魚は全量買い取るので、「クオリティの高い商品の安定供給」と「生産者の方々のリスク低減と収入の安定化」の両立にもつなげます。

